SIFAR

主題としての(こども)

2015年9月下旬配本予定

ISBN978-4-907210-35-9 C0070 A5判並製128ページ 本体450円

REAR no.35

特集 主題としての〈こども〉

未来を見通しにくい現代において、あたらしい家族、とりわけ〈こども〉をもつかどうかは、 一個人一家庭の人生儀礼にとどまらず、人間としての営みや社会的責任に直面する 非常に大きな問題を孕んでいます。

今特集では、未来へ向かって生きていく存在である〈こども〉に注目しました。

芸術の主題は風景や宗教、人間、愛、平和、日常など多岐に渡ります。その中で〈こども〉の 姿形や、彼ら自身の表現は、わたしたちにどんな世界をみせてくれるのでしょうか。

近年では、夏休みともなれば〈こども〉を対象とした展覧会やワークショップが各地で開催され、 積極的に〈こども〉を主題に位置づけて社会のあり方を問うアーティストや企画者の態度にも 関心が寄せられます。

〈こども〉を通してみる世界とは?

私たちに今を見据えることを促し、さらには未来への希望をつないでくれるはずです。



■特集【主題としての〈こども〉】

インタビュー:玖保キリコ こどもはイノセントなわけじゃない

完全体の諸相一マンガにはこどもしかいない

高橋明彦 茶谷 薫

前田ちま子

人類学からみた「こども」という主題が芸術に投げかけるもの

子育てと美術~mhRによる自作自演インタビュー~ 村田早苗 インファンティア、あるいはイメージと言葉 沢山 遼

未来へ向かって生きていく存在

~こどもを通して見る「世界」を巡って~

「こどもの城」から~アートワークショップとアーティスト~

対談:荒木夏実×光田由里

写真における子どもの表象 楠本亜紀

美術館における未就学児のための鑑賞教育プログラムの研究 稲垣立男

鈴村麻里子 美術館における子どもの領分

おとなもこどもも考えた![ここはだれの場所?]をめぐって

增田千恵&堀江達也

美学的主題としてのこども―触育と触話(触れきかせ) 秋庭史典

「アートがわかる」大人になるために インタビュー:山本高之

【批評】

ライヴ化が進むビエンナーレ

――ヴェネツィア・ビエンナーレ第56回国際美術展を中心に 藤川 哲

札幌国際芸術祭2014は国際展としての意義を果たしたか。 穂積利明

〈深読み〉をめぐる一考察—PARASOPHIA—京都国際現代芸術祭2015

山本さつき 森下明彦

海上宏美

伊藤高志の仕事――メディアと「不気味さ」――

2つの回帰、そしてその先へ 『石田尚志 渦巻く光』展 塚田 優

35

山城大督《HUMAN EMOTIONS》について一どんなに近くにあっても

遠い遥けさを思わせる複数形の現象― 石田大祐

【レビュー】

若林奮 飛葉と振動/若林奮展 北谷正雄

地点『かもめ』を観て 地点『かもめ』

京都フィルハーモニー室内合奏団 第198回定期公演

「言霊に音霊会ひし桜かな」 水野みか子

高松次郎 制作の軌跡 大澤慶久

土に生きる=体当たり焼けもの人生

「鯉江良二展 土に還る それ以前・それ以後」 外山杲見

生誕一一〇年 片岡球子展 土生和彦

マームとジプシー「cocoon 憧れも、初恋も、爆撃も、死も。」 井上昇治

伊東宣明「アート」 天野一夫

森北 伸 個展[In My Life] 石崎 尚

http://tsubamebook.com

他

貴店名(番線印) http://2525kiyo.cocolog-nifty.com/ リア制作室 返品条件付注文扱い 返品了解 ツバメ出版流通:川人 REAR no.35「主題としての〈こども〉」 冊 ISBN978-4-907210-35-9 C0070 A5判並製132ページ no.36以降定期『REAR』 バックナンバー 本体各450円 REAR no.34「特集 土のしごと ISBN 978-4-907210-34-2 C0070 REAR no.33 「特集 弥衛さん」 ISBN 978-4-907210-33-5 C0070 ご担当: